

情シス部門の業務効率の最適化

IT資産の一元管理化と クライアント業務の 内製化を支援

はじめに

IT資産管理の難しさ

リモートワークの普及や新しいクラウドサービスの普及により、企業ではIT機器やシステムの適切な活用が求められています。同時に、従業員が持つデバイスの数も急激に増えています。

その結果、増えたデバイスを把握できない、適切に管理できないという問題が発生してしまいます。それはセキュリティリスクにもつながるほか、古い端末を使い続けて生産性が下がる、使われていない端末が死蔵されているという資産管理上の問題も含まれます。

こういったリスクのためにも LCM (Life Cycle Management) 管理は、重要です。

本資料では、LCMサービスを活用し、IT資産の一元管理化を実現させ、情報システム部門の負担軽減につながった事例を紹介いたします。

INDEX

はじめに	1
IT資産管理の難しさ	
1. 導入の背景	
課題：会社設立時にキitting工数とコストが増大	4
課題1：キitting業務に詳しい人材がない	5
課題2：ネットワーク設定の複雑さ	6
2. テクバンのLCMが選ばれた理由	
デバイスの一貫した管理でIT資産を最適化させ、業務改善を目指す	8
メリット1：キitting業務の全てを対応	9
メリット2：専門家によるIT資産管理	10
メリット3：手順書や初期設定のマニュアル化	11
3. 導入の効果	
効果1：デバイス購入から設計、導入、保守までの運用に関する問題を解決	13
効果2：専門家によるネットワーク設定とセキュリティ強化を実現	14
効果3：キitting業務をマニュアル化し、お客様の内製化を支援	15
効果ビフォーアフター	16
おわりに	17
情シス業務の負担削減と、コストカットにつながるLCMサービス	
企業情報	